

右之通、此度錢相場御定有之候ニ付、箸類引下ゲ直段取調、此段申上候、右直段ハ高直之賣方不仕、猶直安に仕入候分は、右直段に不拘、下直ニ賣々致し、木品爲劣不申、正路に渡世可致旨申聞置候間、此段奉申上候、已上、

右引下ゲ直段銘々見世先、江張出し置候様申達仕度候、

諸色之内箸類掛り

牛込馬場下横町

寅八月廿六日

名主 小兵衛印
同所早稲田町 虎三郎印

馬頭盤

〔江家次第第一〕供御藥

次供御銀匙本方五分居馬頭盤又居中盤

藥殿雜具金銅小器一口、同輪一枚、銀匙一枚、銀馬頭盤一枚

〔江家次第第十七〕東宮御元服

皇太子御座前立朱漆四尺御臺盤一脚無覆有兼供朱漆馬頭盤等○下略

〔侍中群要三〕供御膳事

御大盤二脚采女二人、先昇立鬼、間御格子外南北妻、北臺盤居馬頭盤若兼不供者、召御膳宿仰馬頭盤可供之由、其詞云、

馬頭盤末以禮○下略

〔後水尾院當時年中行事上見〕朔日○中采女女官等、だいはん所の南の妻戸よりいりて、馬頭ばん

金器等の物を、だいはんのうへにとり、雙て、次第に供す、

〔厨事類記〕銀器○中

馬頭盤一枚 記云、長八寸八分、首尾弘三寸八分、中三寸五分、足高一寸七分、或記云、長八寸四分、弘

端四寸四分、中三寸六分、四角有足、一説長八寸四分、○中

朝餉銀器○中